

2020年度（2021年3月期）第2四半期決算発表説明会

Q&A

- Q1：新型コロナウイルスの影響等により需要が大きく変動する中、機動的にLNGスポットを調達できるような柔軟性のあるLNG調達戦略へ転換する必要性があるのではないかと。
- A1：LNGスポット価格は変動も大きく、調達の安定性という観点からもリスクが大きいため、これまで長期契約を中心とした戦略をとってきた。今後も、調達方針としての3つの多様化（調達先・契約先・LNGのグローバルネットワーク）を推進し、安定的かつ安価なLNG調達を進めていく。
- Q2：日本政府が「2050年CO<sub>2</sub>実質ゼロ実現」の目標を掲げたことにより低炭素化・脱炭素化に向けたスピード感が高まったが、東京ガスの「CO<sub>2</sub>ネット・ゼロ」の取り組みをどのように変化させていく必要があるのか。
- A2：東京ガスの「CO<sub>2</sub>ネット・ゼロ」における取り組みが大きく変わることはないが、国内における洋上風力・太陽光発電などの新規プロジェクトの立ち上がりが増えること等が想定されるため、収益性を見極めたうえで拡大していく。また、将来を見据えた水素・メタネーション等の技術開発についても、アライアンスなどを通じて加速し、将来の事業拡大につなげていく。
- Q3：足元の利益水準が1,000億円に満たない中、コロナ禍における不可逆的な経済活動・行動様式の変化によるマイナス影響をどのようにして挽回し、中期経営計画の利益目標1,400億円を達成していくのか、具体的な取り組みを教えてください。
- A3：コロナ禍を受けても、市場環境の変化「4つのD」の方向性に大きな変化はないが、変化のスピードは加速している。これをチャンスとして捉え、国内外における再エネ事業の拡大、デジタルを活用した電気販売の全国展開の加速、LNGトレーディング事業の拡大、海外におけるLNGインフラ事業の推進に加え、更なるコスト改革を推進し、利益目標1,400億円に向けて努力を続けていく。

以上